



編集月旦 2014年9月号

★秋山如粧。「敬老の日」(第3月曜・15日)「老人の日」(15日)「老人週間」(15～21日)」を過ぎて。秋分(23日)も過ぎて。

★9月が「高齢者に関する活動月間」であることが、自治体の取り組みとして定着してきています。福祉中心ですが、高齢人材養成やしごとづくりや居場所づくりでの展開が加われば、「運動月間」として年々の成果が期待されます。

★臨時国会がはじまりました。アベノミクスという異次元の前払い政策(利による対策)の即効効果に陰りが濃くなっています。「第3の矢」として安倍首相には女性登用(実績がない)のほかに打つ手がなく、緊急に「異次元の手」を打たねば金融危機も想定されます。

★この間、増田寛也・日本創成会議座長の「896自治体消滅論」が人口減少で、石破地方創生担当相の「まち、ひと、しごと創生会議」が地域でのしごとの創出と若者の生きがいで「地域の話題」になりましたが、増田・石破さんの議論では、総体的な地域創成・創生の姿が立ち上がってきません。政治家はなんで高齢者がもつ「知識」「技術」「資産」という潜在力の出動を求めないのでしょうか。

★29日の「所信表明演説」で安倍首相は、若者と女性には呼びかけましたが、「高齢者」にはまったく言及しませんでした。言及がなくとも高齢者層が自主的に動くことでしか、「地方創生」も持続的な「経済再生」(内需)も本格化しないでしょう。

★いま「引退余生」ではなく、「現役長生」型の意識をもつ高齢者層(本稿の丈人層)が潜在力を発揮して地域で活動し、職域で定年を前にした高齢社員とともに高齢者向け自社製品を創出して、地域と職域とで存在感を示す時期にきています。地域での「共生の文化」をいわれる堀田さんはもっと危機的緊急時と把握されています。

★新論考『まあ、いいか、でいいか 「人生90年」時代を前にして』(9・23稿)をすみやかに巷間に投じて、急ぎ堀田支援軍を送りたい。どうかご支援ください。来年の地域対策、地方選を通じて、全国に水玉模様のような「シニア生活圏」を形成することが、地域・平和・民主主義を守る“歴史的事業”となると確信しています。

★「いま、この人たちの声を聴こう」を再録いたします。それぞれに確かな将来像を述べておられます。☆樋口さんは史上初の「人生100年社会」です。この講演は高齢社会を形成するプロセスを理解する上での歴史的文書です。☆小宮山さんは「産業革命」から「プラチナ革命」へ。大量生産時代を終えて新しい価値QOLである「省エネ時代」にはいつていることを具体例によって示しておられます。☆原老健局長の説明は住み慣れた地域での「支えられる高齢者」への「医療・介護」を包括的に確保する「地域包括ケアシステム」の充実を示し、同時に堀田さんは、「支える側の高齢者」の地域参加を訴えて、「新地域支援構想」の説明で全国の自治体をまわっておいでです。双方への理解と対応が、安心して地域で暮らす高齢者の側の務めです。☆秋山さんは高齢社会活動の成功事例を集めた「リソースセンター」の設立を提案。東大のリーディング大学院での人材育成や柏市のまちづくりや第2回「高齢社会検定試験」をおこなうなど、ご本人の成果の積み上げは明解です。☆民主党顧問の藤井さんは、「戦争に向かわない社会を守りつづける政治」「歴史に学ぶ政治」を実践しておられます。近現代史研究会のオープンフォーラムはそのひとつ、「戦争」を中心テーマに昭和の歴史にその起因をさぐっています。

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むだれもが等しく豊かさを享受できる「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の目標です。(編集人 記)



